

# あなたの声を 町政に

一般質問は、8人の議員が14項目にわたり諸問題を質しました。



近藤大介議員

**問** 大山恵みの里づくり計画の状況と今後の展開について問う。

お魚センターみくりやの状況、4月完成の観光交流センターの役割など、施設整備後のビジョンと、観光物産振興の見通しは。また、大山恵みの里公社の事業実績の状況、今後の事業展開は。

## 観光施設整備後のビジョンは

### 情報発信で面的広がりを推進

**答** (山口隆之町長)

昨年11月オープンのお魚センターみくりやは、御来屋漁港で水揚げされた新鮮な魚介類を安価で提供し、町内外から多数のお客様に利用頂いている。2月末までの利用客数は、直売で約1万3千人、食堂が約5千人。観光交流センターは、



道の駅「大山恵みの里」4月4日オープン

単なる休憩所、直売所、食堂ではなく、広く本町の旬の情報や優れた物産を来訪者に周知し、町内での滞在時間を延ばし、ひいては町内での消費拡大を図ると共に、アンテナショップとして消費者の嗜好等の情報収集と本町産品の認知度向上を図っていくのが大きな役割であると認識している。

他の施設と相互に密接

に関連し、お互いがお互いの情報を発信し合うことで、相互補完にとどまらず相乗効果を持ち、町の魅力がより一層高まり、一部地域のみ集中していた観光客の面的な広がりが推進されるものと思

クの導入や人員の雇用などの投資額にほぼ均衡した収支決算になるものと見込んでいる。

今後、金融機関や農協などの支援を受けながら販路拡大を継続し、良質な産品を安定供給していくために生産者組織の拡充を図っていきたい。

今年度策定するブランド認証基準の徹底により、更なる大山ブランドの強化、道の駅の運営を通じて体力強化、経営ノウハウの取得、新たな商品開発の着手など攻めの姿勢で積極的に前進していきたい。

大山の恵みの里づくり計画は決して産業活性化計画だけではなく、教育とか文化・歴史もこの中に盛り込まれている。総合的な大山の魅力を、外部の方々に、町民みんなが発信をしていくことが、町民総参加のまちづくりであり、この計画の目標であると思っ

大山恵みの里公社の20年度の収益事業取扱高の見込みは約5300万円。公益事業約3300万円と併せた収支は、ト